

宇陀市 地域公共交通新聞

VOL.1
2026年5月発行

少子高齢化や人口減少が進む中で、「移動」を取り巻く環境は大きく変化し、このままでは現状を維持することさえ困難な現状です。
市では、今後このような紙面を通じて、地域公共交通の状況や今後の在り方について定期的にお知らせします。

お知らせします 宇陀市の地域公共交通、いまの状況

**現状維持さえ困難！
財政面だけでなく、「運転手不足」という物理的ハードルも！**

これまで「地域公共交通」の課題といえば、主に赤字路線の維持費という「お金」の問題でした。
しかし今、私たちはそれ以上に深刻な事態に直面しています。それは、「バスなどを動かす運転手さんが足りない」という問題です。
「2024年問題」と呼ばれる物流・運送業界の労働規制強化に加え、少子高齢化による担い手不足などにより、全国で、歴史ある路線が突如として廃止や減便に追い込まれるケースが相次いでいます。ここ宇陀市も、決して例外ではありません。

宇陀市地域公共交通の現在地

宇陀市では、高齢化率が42%を超え（県平均で約31%）、75歳以上が約21%（県平均で約16%）と高齢化が進行しており、今後は免許返納者の増加も見込まれます。地域によっては、移動手段に乏しく、自力での外出が困難な方の割合が高い地域もある状況です。
一方で、路線バスやデマンド交通の収支率*はいずれも低水準であり、燃料費・人件費の高騰等により、運行経費は増加傾向にあります。その結果、不足分は市の税金で補填せざるを得ない状況が続いています。

*収支率 = 運賃収入 ÷ 運行経費

住民アンケート結果が示した「交通に関するお困りごと」

第2次宇陀市地域公共交通策定にあたって実施したアンケートで寄せられた切実な声と不安

※無作為抽出（約2,300票）やバス利用者アンケート等

「今は車を運転しているが、免許を返納したら、雪の日はどうやって買い物に行けばいいのか不安です」

免許返納後の生活について、約50%の方が「非常に不安・負担を感じる」と回答。将来への不安の声が多い状況です

「バスがなければ、学校に通えない。子どもや若者が住み続けられるまちであるために、堅持してほしい」

「市役所や市立病院まで、家から直接行ける移動手段がほしい。乗り継ぎは高齢者には負担が大きい」

家族送迎をしている世帯の約82%が、「仕事や家事の時間を調整しています」と回答。日常生活の負担となっています

「子どもの塾や部活の送迎のために、仕事を切り上げて帰らなければなりません。バスがあれば家族全員が助かるのに」

数字で見る 宇陀市の 地域公共交通

路線バス等の利用者数 (R7年度実績)

○路線バス (奈良交通)	443,363人 (前年比 +5.6%)※R6年度
○榛原大野線	1,764人 (前年比 △19.7%)
○かきろひバス	1,618人 (前年比 +0.8%)
○デマンドタクシー	2,550人 (前年比 +3.3%)
○らくらくタクシー	2,368人 (前年比 +43.5%)
○ノックルおくうだ	166人 (R7～)

路線運行 (バス・市営有償バス等) の収支率 (R7年度実績)

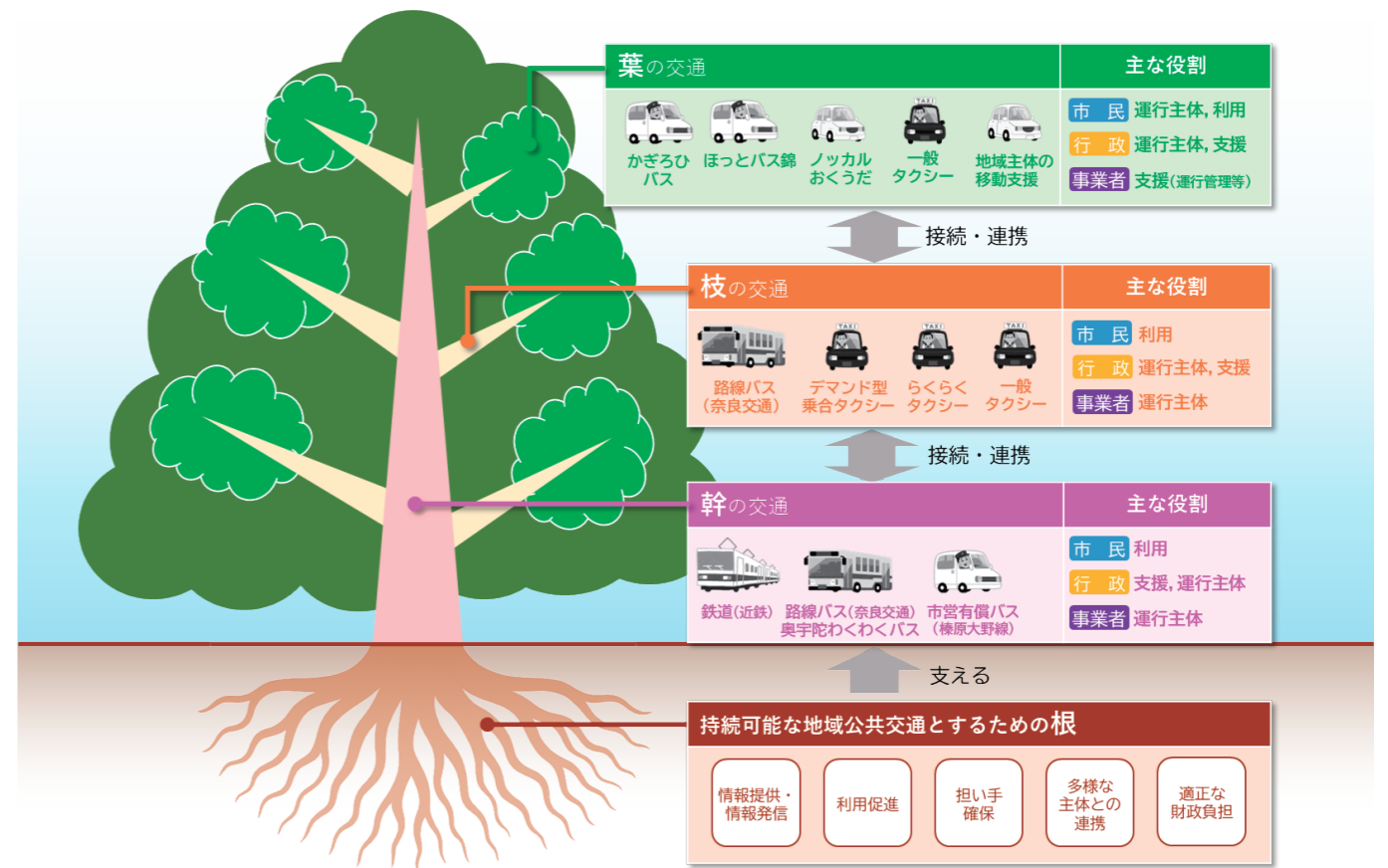
○路線バス (奈良交通)	37.56% (前年比 +0.82ポイント)※R6年度
○榛原大野線	9.31% (前年比 △1.45ポイント)
○かきろひバス	8.60% (前年比 +0.08ポイント)
○デマンドタクシー	7.61% (前年比 +0.25ポイント)



宇陀市が掲げる再生のカタチ 「共に創り、育て、守り続ける」地域交通

宇陀市では、将来にわたって誰もが安心して移動できる環境を確保するため、「第2次 宇陀市地域公共交通計画」を策定しました。本計画では、鉄道・路線バスなどの「幹」と、タクシーやかきろひバス、地域主体の交通などの「枝・葉」を組み合わせ、市内全域で持続可能な移動の仕組みづくりを進めます。

- 「幹」 広域幹線や地域間交通の維持・連結強化**
鉄道および主要路線バスを中心とした幹線交通の機能を維持し、地域内交通との乗継利便性を高める。
- 「枝」 暮らしを支える地域内交通の効率化**
需要に応じた運行形態を導入することで、生活圏間の移動を持続可能にし、地域の暮らしを支える。
- 「葉」 地域のコミュニティで支える生活圏内の移動支援の充実**
地域のコミュニティと連携しながら多様な手法で、近距離移動を確保し、高齢者や交通弱者の生活を守る。
- 「根」 持続可能な地域公共交通に向けた情報・連携・意識の基盤づくり**
情報提供の効率化や担い手確保、財政負担の適正化を進める。市民が地域公共交通を「自分ごと」として捉え、地域全体で公共交通を守る仕組みを構築する。



皆さんと一緒に地域の公共交通を守ります

宇陀市では、これまで地域主体のバス運行やデマンドタクシー、公共ライドシェアなど地域公共交通に関しては先駆的な独自の取組を行ってきました。
しかし、「これだけやっても足りない」――。これが今の宇陀市の正直な状況です。それには宇陀市特有の広大な面積と地理的条件などが関係していると考えられます。

今日、人口減少・高齢化、物価高騰や燃料費の上昇などの社会情勢の変化により、地域公共交通の経営環境が一層厳しくなり、従来のように事業者や行政に頼る仕組みだけでは維持が難しくなっています。これからは、私たち自身が、地域公共交通を守ることを「自分ごと」として認識する必要があります。

宇陀市は、今後も市内全域で持続可能な移動の仕組みづくりを進めます。あわせて、地域が主体となって行う交通サービスに対し、市が相談・支援窓口となって伴走支援を行います。また、市内での先事例のノウハウを共有し、他地域への展開を後押しします。

詳しくは問い合わせ先までご相談ください。

2026年5月発行 発行：宇陀市地域公共交通活性化再生協議会
(問合せ) 宇陀市役所企画課 TEL：0745・82・1362

裏面を参考に
宇陀市の地域公共交通に
乗ってみよう！



宇陀市の地域公共交通に乗ってみよう！

ここでは、宇陀市での暮らしの中で実際に想定されるある1日の移動例をご紹介します。

皆さんの利用が、地域の移動を支えます。誰かの「通院」や「通学」を守ることにつながります。「自分は車があるから関係ない」そう思われるかもしれませんが、しかし、生活の一部で公共交通を利用することで、公共交通は守られ、次に必要とする人の移動につながります。「残すか、なくなるか」は、使われ方次第。通院や買い物、役所への用事など、「いつもの移動を、たまには公共交通で」その一歩が、宇陀の未来を守ります。

乗り方いろいろ 地域公共交通

デマンド型乗合タクシー (区域運行)

予約申し込みを受け、室生地域内の利用登録者のご自宅や指定場所から目的地まで、タクシー車両により運行を行うサービス



かぎろひバス

大宇陀の上龍門地域まちづくり協議会、大宇陀政始まちづくり協議会のみなさん自らが運転手として、交通弱者の移動手段を確保することを目的に実施している事業



らくらくタクシー

菟田野地域であれば、タクシーが400円で利用できるサービス



市営有償バス 榛原大野線

市が主体となり、宇陀市役所～室生地域事務所間を運行しているコミュニティバス



ノッカルおくだ

内牧地域で実証実験中の住民ドライバーがマイカーを用いて送迎を行う取組



使用例 1 ■室生地区(下笠間)から榛原でのお買い物利用

往復運賃
1,700円

- <行き>
- 8時台のデマンド型乗合タクシーを予約し、室生地域事務所へ
 - 室生地域事務所 9:09 発の榛原大野線に乗る
 - A コープ榛原店 9:29 着
 - 市立病院前 9:41 着
 - 宇陀市役所 9:48 着
- <帰り>
- 近鉄榛原駅 11:57 発の電車に乗る
 - 室生口大野駅 12 時台のデマンド型乗合タクシーを予約し帰宅

使用例 2 ■大宇陀(田原)から大宇陀地域事務所での手続きと周辺での買い物利用

往復運賃
600円

- <行き>
- 上片岡集荷場前 7:50 発のかぎろひバスに乗る(地域事務所 8:00 着)
- 行政手続きと買い物
- <帰り>
- スーパーもりかわ 9:19 発のかぎろひバスに乗る(上片岡集荷場前 9:56 着)

使用例 3 ■菟田野(下野野)から榛原でのお買い物利用

往復運賃
1,720円

- <行き>
- ご自宅から「らくらくタクシー」で宇陀藤井バス停まで
 - 宇陀藤井 9:24 発の榛原行バスに乗る(榛原大橋 9:33 着)
- 行政手続きと買い物
- <帰り>
- 榛原大橋 11:16 発の菟田野行バスに乗る(宇陀藤井 11:27 宇陀藤井着)
- 予約した「らくらくタクシー」で自宅まで

使用例 4 ■榛原駅から市立病院への通院利用

- 奥宇陀わくわくバス (190円)

〈行き〉	7:53	11:58	14:13
〈帰り〉	9:54	13:53	16:21
- 榛原大野線 (180円)

〈行き〉	8:32	10:32	13:22
〈帰り〉	9:41	11:41	15:11

